

(1)

開催講座案内 〈シリーズ戦後80年〉いまこそ、考えたい戦争と平和

語り継ぐ戦争

～被爆者からあなたに、戦後80年をこえて～

- 第1回 1月25日（日）被爆者の「体験」に触れる
——記録から考える
- 第2回 2月15日（日）日本被団協が求めてきたもの
——運動の足跡から考える
- 第3回 3月1日（日）戦争をしない・させないために
——いま〈継承〉を考える

講 師 栗原 淑江・中尾 詩織
(NPO 法人ノーモア
・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会)
コーディネーター 根本 雅也 (一橋大学)
とき すべて昼2時～4時
ところ 公民館 3階講座室
定 員 30名 (申込先着順)
申込先 1月8日（木）朝9時～
電話または申込フォームより
費 用 テキスト代実費 680円
(岩波ブックレット『被爆者からあなたに—いま伝えたいこと』)
※公民館で事前にご購入いただけます。



栗原淑江さん



中尾詩織さん

2024年、日本原水爆被害者
団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞しました。日本
被団協が結成されたのは1956年。ビキニ環礁水爆実験による第
五福竜丸の被爆を受け、原水爆禁止運動が全国に拡大したことがき
つかけでした。ふたたび被爆者を
つくらないことを願い、被爆者自
ら傷ついた心と身体をさらけ出し、
世界に向けて声を上げたのです。

太平洋戦争末期に投下された原
爆は、一瞬にして広島と長崎を死
ぬことも、「人間として死ぬこと
とも許されない（『原爆被害者
の基本要求』）、想像を絶する経験。
戦後80年を迎えた被爆者の声を直接



ノーベル平和賞授賞式日本被団協代表団の記念写真。

亡き被爆者の顔写真とともに(2024年12月10日)。※提供：日本被団協

今回、長年被爆者調査や
その運動に関わり、いま、残
された史料の保存・活用に携
わる栗原さん、継承に向き合
つてきただけでなく、これまで
わたしたちはどう受け止め、
未来へつないでいくことがで
きるのでしょうか。

モア・ヒバクシャの願いを、
わたしたちはどう受け止め、
未来へつないでいくことがで
きるのでしょうか。

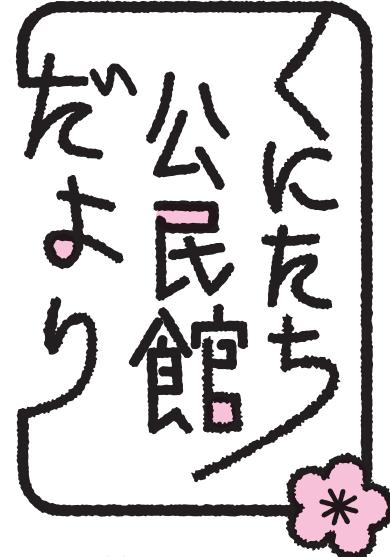
聞きこなしが難しくなりつつあ
るいま、被爆者たちの苦しみ
と、そこから生まれた「ノ
ーベル平和賞受賞式日本被団協
代表団の記念写真」とともに(2024年12月10日)。※提供：日本被団協

もとに体験に触れ、日本被団協
のあゆみを知る中で、私たちができ
ることを考えるヒントを得る機会
としていたいと思います。



日本被団協結成大会（1956年8月10日）
※提供：日本被団協

動する伝承者をお招きし、連続講
座を開催します。被爆者の手記を
もとに体験に触れ、日本被団協の
あゆみを知る中で、私たちができ
ることを考えるヒントを得る機会
としていたいと思います。



第 791 号

2026年1月5日

(令和8年)

「くにたち公民館だより」
デジタルブック▶

迎春

発行 国立市公民館

〒186-0004
国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141
FAX 042-573-0480
休館日：毎週月曜日

〈国立市公民館70周年記念講演(2025年10月12日(日)開催)〉

やまぎわじゅいち 山極壽一さん

「争いばかりの人間たちへ ゴリラの国から —『ともに生きる』ってどんなこと?」講演要旨

公民館70周年事業として開催され、200名以上の参加者があった山極壽一さんの記念講演の一部をご紹介します。ワクワクするような内容でした。より詳細な講演記録や白熱した質疑などのやりとりは、3月発行予定の70周年記念誌に収録予定です。ぜひ併せてお読みください。

■人新世における危機と 近代思想への疑問

この度は、国立市公民館開館70周年記念事業にお招きいただき、ありがとうございます。本日は「ともに生きる」つてどんなこと?」という副題がついています。私が、私は長年のゴリラ研究を踏まえた靈長類学や人類史的観点から争いや暴力が絶えない人間社会の諸問題の根源について、考えてみたいと思います。



【山極壽一さんプロフィール】

国立市出身の靈長類学・人類学者。2020年まで第26代 京都大学総長。理学博士。人類進化論専攻。2021年より総合地球環境学研究所の所長を務める。近著に『争いばかりの人間たちへ ゴリラの国から』(毎日新聞出版、2024年)、『老いの思考法』(文藝春秋、2025年)など多数。

まず、今、私たちは「人新世（アントロポセン）」の時代にいると言われていますよね。この100年間で人類の人口は4倍の83億人に達し、特に1950年代以降の大加速（グレート・アクセラレーション）期に、GDPや水の消費など、あらゆる指標が急速に同期して伸びているんです。その結果、人と家畜を養うため

おかしいんですよ。近代科学
資本主義、新自由主義によるグローバル化は、個人の欲望を無限に拡大して、これで僕らは幸福になると思ったんだけど、このままじゃ地球に人間が住めなくなりますよ。何かおかしい。それで、僕は考えてみたんです。近代をつくった17世紀の思想家たち、これが間違っていたんじゃないかと思うんですね。

の土地が地球の歴史の4割を超える人間と家畜が地球上の生物資源の96%に達した。そして、「惑星限界（プラネットリー・バウンダリー）」の指標のうち、6つ（新規化学物質、気候変動、生態系の損失、土地利用の変化、グローバルな淡水利用、窒素とリンの循環）が限界値を超過している。このままいくと、地球が人間の住める惑星ではなくなっていくという予想が成り立つわけですよ。

たとえば、フランシス・ペーコンは、自然は放つておいたら無価値だから人間が技術で開発しなければ価値がないと言った。そこから産業革命が始まり、イギリスは最初に森林を全部伐採しました。トマス・ホップズは、人間の自然状態は闘争状態である。だから大きな権力に権利を移譲して、秩序をもたらさなければならぬと

「**假説**」といふ間違つた假説を踏襲しているんです。狩猟と分業が人類を進化させ、狩猟具を人間に向けて戦いが始まつたという説です。

しかし、人類の進化、700万年間の中で、最古の槍^{やり}が見つかるのは50万年前ですし、それは投げる槍^{やり}ではありませんでした。長い狩猟採集時代に、集団間で戦ったという記録はほとんどありませんが、おかげで現在の狩猟採集民でも武器を持って戦い合ったという報告はほとんど出ていないんですよ。人類は長い進化の間、ほとんど集団間で暴力を發揮してこなかつたんですね。だから、「狩猟仮説」というのは間違いだった。それにみんな気づいていながら、いまだにその仮説を捨てていいない。その暴力的な人間観の象徴とされたのが、19世紀に発見されたゴリラなんですよ。歐米人にとって

■「狩獵仮説」の誤りと「ゴコロの真実

■「狩猟仮説」の誤りと
ゴリラの真美

バラク・オバマ大統領も、2009年のノーベル平和賞の受賞演説で「戦争は、最初の人間が現れたときからあった」「干ばつや感染症と同じぐらい単純な事実だった」とおっしゃっている。これは第二次世界大戦後に現れた「狩猟仮説」という間違った仮説を踏襲しているんです。狩猟と分業が人類を進化させ、狩猟具を人間に向けて戦いが始まったという説ですね。

しかし、人類の進化、700万年間の中で、最古の槍が見つかるのは50万年前ですし、それは投げる槍ではありませんでした。長い狩猟採集時代に、集団間で戦つたという記録はほとんどありませんおかげで、現在の狩猟採集民でも武器を持って戦い合つたという報告はほとんど出ていないんですよ。

人類は長い進化の間、ほとんど集団間で暴力を発揮してこなかつたんですね。だから、「狩猟仮説」というのは間違いだつた。それにみんな気づいていながら、いまだにその仮説を捨てていいない。

その暴力的な人間観の象徴とされたのが、19世紀に発見されたゴリラなんですよ。歐米人にとって



メイン会場である地下ホールには、定員いっぱいの参加者が集いました。

熱帯雨林は「闇の世界」であり、その奥に住むゴリラの「ドラミング」が宣戦布告だと誤解され、暴力的で悪魔的なイメージが定着しました。

しかし、研究者たちが群れに入つて観察した結果、ドラミングは自己提示、遊びの誘いなど、接触せずに意思を伝える非常に高度なコミュニケーションだったということが分かったわけです。またゴリラは、優劣をつけない。けんかが起きた時に、第三者が仲裁をするんですよ。ゴリラは100年以上も誤解されてきましたね。今、我々が考えなければならないのは、この調停能力なんですよ。トマス

■共感力の進化・共食、二足歩行、共同保育

私の仮説を言うと、人類が自然

上も誤解されてきましたね。今、我々が考えなければならないのは、この調停能力なんですよ。トマス・ホップズの理論と反対の理論なんです。

その延長線上に我々はいます。だからこれほど暴力が蔓延しています。だけど、我々の身体や心は、700万年かけて築き上げてきた狩猟採集という世界にまだ適応している。定住と所有を原則とした暮らしに適応してないんです。そこで生まれるいさかいや暴力を治める技術が生まれていません。

人類は、なぜ共感力を高めたか。人類の祖先が、熱帯雨林を離れてサバンナへ出たことが、共感力を高める必要性を生みました。

一つは「共食」です。猿が優劣で争いを避けるのに対し、チンパンジーやゴリラは、雌に見放されないために弱い個体に食物を分け与える行動をします。人間はさらに一歩進んで、自分が必要以上の食物を、安全な場所にいる仲間に

ために運び、一緒に調理して食べる「共食」を始めた。これにより食物が社会的な道具となり、共感化したと思っています。その理由とは、「定住と所有」です。

狩猟採集民は、定住せず移動生活をしていた。そして、所有をなして避けてきた。でも、農耕・牧畜が始まつてから、人間はこの個人間でも集團間でも敵対心が高まります。

その延長線上に我々はいます。喉頭が下がり、多様な声を出せるようになり、「音楽的な声」と「踊る身体」につながったんじゃないのか。踊りは自分の身体を他者に預けることであり、この「身体の共鳴」が共感を生んだと考えられます。

三つめが「共同保育」です。人間の赤ちゃんは、他の類人猿と異なり、ひ弱で母親にしがみつけません。しかも、多産性を獲得するため、早く離乳してしまう。しかし、脳の成長（生後1年間で2倍、12歳から16歳まで続く）を支えるために多大な栄養が必要です。

採集民が暮らしている集團規模であり、現代社会で悩みやトラブルを抱えたときに疑いなく相談できる相手の上限なんですね。この信頼できる仲間は、「喜怒哀樂を共にし、身体を共鳴させた経験」に、よってつくられるソーシャルキャピタル（社会関係資本）なんです。

災害や肉食動物への脅威に立ち向かうために高めてきた「共感」という能力がある理由で暴力に転化したと思っています。その理由とは、「定住と所有」です。

二つめは「直立二足歩行と身体の共鳴」です。二足歩行によって、速力や敏捷性を失うという「弱み」は、エネルギー節約率が高く、両手が自由になり食物を運べるという「強み」に転化しました。また、喉頭が下がり、多様な声を出せるようになり、「音楽的な声」と「踊る身体」につながったんじゃないのか。踊りは自分の身体を他者に預けることであり、この「身体の共鳴」が共感を生んだと考えられます。

三つめが「共同保育」です。人間の赤ちゃんは、他の類人猿と異なり、ひ弱で母親にしがみつけません。しかも、多産性を獲得するため、早く離乳してしまう。しかし、脳の成長（生後1年間で2倍、12歳から16歳まで続く）を支えるために多大な栄養が必要です。採集民が暮らしている集團規模でかかる成長を支えるためには、親だけでは手が足りず、集團の誰もが育児を担う「共同保育」が必要となりました。

例え、10～15人の「共鳴集團（スポーツのチームサイズ）」は、10万年前より遙かに早い。したがって、脳を大きくしたのは言葉じやありません。イギリス人のロビン・ダンバー氏の研究によれば、脳の大きさ（新皮質比率）と靈長類の集團規模には正の相関がある。つまり、「大脳化は社会脳化による」という結論に達したわけです。現代人の脳容量（1400cc）は、1600ccに匹敵する集團サイズは、「150人」と言わています。これを「ダンバー数」といいます。150人は現在でも狩猟採集民が暮らしている集團規模であります。

■A-Iの危険性と文化の再構築

今、我々が直面しているのは、通信情報科学の問題です。現代社会では、A-Iに依存するようになつて知能を支える知識の部分を外出にして分析します。A-Iは過去の情報から答えを出すから、人



より多くの方にご参加頂けるよう、ロビーと講座室で生中継を行いました。(写真はロビー)



質疑応答も活発に交わされました。

地域特有
化を招き、文
化の均一
化を引き
上げ、文
化の情
感を吸い
込める
産業の
ラットフ
ームは、
個人の情
し、情報
とです。

間が持つ「何もないところから発想する」という野心的な部分がどんどん薄っていくと思うんです。既に起こっている安心な選択肢を重視してしまう可能性がある。みんなAIに聞いて、「一緒に同じ方向に誘導されかねない。AIは身体も意識も持たない。論理や倫理を情報だけで作るんです。我々がそれに依存すると、戦争はいいことだと、暴力を振るうのは仕方がないという結果になるかもしれない。とても危ないことですよ。

私は、SDGsに「文化」がないことが不満なんです。文化は身体、心の中に埋まり込んだ価値観であり、地域と切っても切れない縁があります。「文化的多様性」は、生物的多様性と同様に、交流、革新、創造の源として人類が必要なものであると2001年のユネスコ総会でも言われています。しか

れども、地域社会に根付いていた「リズム」つまり音楽的・身体的なコミュニケーションですね。地域が自活できる、コンヴィヴァイアル（自立共生）な力を蓄えていくことが求められているなか、社交の基本である「150人の共同体」を再構築する絶好のチャンスです。所有物を減らし、分かち合い（シェアリングやコモンズ）の社会へ移行していくべきです。私たちの社会は、物が人と人との分断する社会になっています。所有することによって、人の価値が所有物の価値に換言されちゃっているわけですよ。でも、長い時間をつくつてやってきたのは、物を分かち合うことで人と人とがつながる社会でした。

くにたち公民館70周年

公民館とわたし⑥

LABO☆くにスタに通い始めたのが、私と公民館の出会いです。勉強だけでなく、同年代の中高生や支援者である大学生たちとワイワイ交流できるこの場所は、私に安らぎと楽しみを与えてくれます。まさに、私の青春の1ページであり、LABOなくして今の私はありません。進学後は、支援者として学習者や公民館を支えていき、恩返ししたいです。



野崎歩 大学受験に奮闘中の純国立市民です。

消防団として「公民館 de 防災」に初回から参加していて第六分団は水消火器による初期消火指導を行っています。その他にも様々な団体の方が参加されていて震災講義や、AED体験、防災グッズ展示、防災食など防災について



細田良太 国立市消防団第六分団 分団長

多くの方のおかげで、連載コラム「公民館とわたし」の記事を集めることができました。本コラムは2026年3月5日号まで掲載予定です。

の言語、自然、産業、伝統的な縁などを喪失させている。

未来をくるためには、パンデミックで制限された「移動、集まる、対話する」という3つの自由に基づいた、新しい「社交」の文化を再構築しなければならない。

「リズム」つまり音楽的・身体的なコミュニケーションですね。地域が自活できる、コンヴィヴァイアル（自立共生）な力を蓄えていくことが求められているなか、社交の基本である「150人の共同体」を再構築する絶好のチャンスです。所有物を減らし、分かち合い（シェアリングやコモンズ）の社会へ移行していくべきです。

公民館との出会いは、退職後何か新しい事をしたいと思っていた時に目にした「公民館だより」の朗読講座の受講がきっかけでした。講座終了後、朗読サークル（こぎつねの会）に参加し、仲間たちとの練習や文化祭の参加などの交流を通して、楽しく有意義な時間を過ごしています。



田中雅子 読書が大好きです♡

子どもの幼稚園へ行く通り道に公民館があり、よく利用するようになりました。季節の絵本を借りて家で楽しんだり、下の子には読み聞かせをしたりしています。公民館のおかげで、絵本を通して親子でゆったりとコミュニケーションを深める時間を持つことができました。



こはる 2人の子を育てています。

公民館音楽室の利用を始めて数年です。現役時代は朝晩公民館前を通っていましたが、公民館って何をする所なんだろうと思っていました。仕事から離れ、さて、と思った時に学生時代にJAZZに傾倒した事から、そうだJAZZを歌おうと思い、以来今は友人達と音楽室を利用しています。ピアノが有り大きな声が出せる事でとても楽しく過ごしています。



喜三郎 Jam Groovy

（5） 公民館主催講座の申込先・お問い合わせ先 公民館☎042-572-5141

〈国立市公民館70周年記念イベント実施報告〉 2025年11月2日（日）開催

わたし(たち)にとっての「くにたち公民館」 —「ともに学ぶ」ってどんなこと？

開館70周年を迎えたくにたち公民館で記念イベントを開催しました。当日は100名を超える方々に参加していただきました。

1. 記念式典

館長からの趣旨説明、市長・教育長あいさつの後、市民文化祭参加団体のコーラスグループ「ハートヴォイス」による「この道が好き」（作詞：北島多佳子、作曲：遠藤信男）の合唱が披露されました。



濱崎市長によるあいさつ



ハートヴォイスによる合唱

2. 公民館で活動する市民のリレートーク

関わっている期間・活動も様々な5名の登壇者に、くにたち公民館との出会い、活動への思いをお話いただきました。それそれに語っていただいた「ともに学ぶ」体験を通じて、くにたち公民館で行われている多様な学びの形を参加者と共有しました。



- ◀写真左から
・北島多佳子
(障害をこえてともに自立する会)
・杉原広子(近代思想研究会)
・三谷桂子(KUNIFA 日本語サポート)
・森川健治(身体表現講座参加者)
・山上眞依
(ゼロエミッションを実現する会・国立)

3. 記念講演「言葉が自由に行き交う心地良さ」 講演：長谷川 宏（哲学者）



講師のおだやかな語り口にひきこまれました。

長年にわたるくにたち公民館での哲学講座や読書会、自宅で開く学習塾などの活動をふり返りながら、「長く続けることで生まれる信頼関係、それによって自由に言葉が行き交い、互いに通ずることの嬉しさ」についてお話しいただきました。くにたち公民館で長く続く「開かれた学び」、そしてまさしく今回の70周年イベントのテーマである「ともに学ぶ」ということについて、改めて考える講演となりました。

参加者アンケートから

- 周年事業を公民館・市民と一緒に企画・運営しているところは、なかなか見当たらない。「ともに学ぶ」というテーマが利用団体や講師の立場から、ちゃんと語られ、納得できた。公民館職員が「ともに学ぶ」ことをどう考えているのかが聞けなかつたので、これから展望を語ってほしかったです。
- 合唱、リレートーク、記念講演、どれもよかったです。やはり「対面」「対話」がいいですね。
- 「この道が好き」の合唱から、リレートーク・講演まで、公民館職員さんと市民の有志の方々で開催された、「70周年式典」という堅苦しさのない手作り感満載のくにたち公民館らしい温かい会でした。

下記の特設ページに、70周年事業の取り組みをまとめています。



▲70周年特設ページ

(7) 公民館主催講座の申込先・お問い合わせ先 公民館☎042-572-5141

連絡先 日時 場所 こみや 090 (4027) 6974
東地域防災センターなど 第2・4金曜日朝10時～12時



(8ページにもあります)

クラシックギター会員募集

くにたちギタークラブがビギナーを募集します。ベテラン会員が手ほどきいたします。入会金・月会費不要です。

「医の倫理と戦争」上映会
加害者としての戦争を語る映画上映会。731部隊の真実を追うながら、現在の医療現場を取材したドキュメンタリー（77分）。上映後、感想交流会を行う予定。

日時 1月24日(土)朝10時
場所 公民館 地下ホール
連絡先 龍野 090 (1469) 1094

いーゼ「きりがみアート」

感性豊かなひととき・個性豊かなオンラインワーキングアート。未就学児から何歳でも、気に入った素材を集めで貼るだけで出来ます。予約不要。中学生以下300円他500円。月会費不要です。

朗読劇はじめての体験会 無料
優しく寄り添い力を引き出す山崎巖先生（数々の大会 優勝者）と一緒に声で演じる朗読劇を気軽に楽しみませんか？申込み不要。

日時 1月30日(金)昼3時～4時
場所 公民館 講座室
連絡先 中村 070 (2623) 1643

合同いけ花の会 メイト募集

あなたも日本のいけばなを始めてしまませんか。体験者を募ります。2月は池坊を4回開催します。各流派が集まつた会です。花代3千円。

（11月21日（金）実施）報告。
○70周年記念事業の進捗状況報告。
○その他、「公民館だより」のユニアーリング班・メッセージ班・記念誌班の活動について。
○その他、「公民館だより」のユニアーリング班・メッセージ班・記念誌班の活動について。

○公民館だより編集委員会、社会教育委員の会より報告
○第47回全国公民館研究集会東京大会（11月12日（水）13日（木））について報告。参加委員の感想を共有。「第62回東京都公民館研究大会（2026年2月7日）について案内」

○社会教育学習会「私が「地域」と出会うまでのつながりと学びの発見」市民のリレートーク他
○「職員人事要望書」について、今後検討していく提案あり。
○「職員人事要望書」について、次回1月13日（火）夜7時15分から講座室。傍聴歓迎。（北村）

公民館図書室 休室のおしらせ

1月27日(火)から29日(木)まで
蔵書点検のため休室します。

休室期間中は、本の貸出や予約はできません。返却は公民館正面玄関入口横に設置している「本のボスト」へお願いします。

新聞は、上記期間中は朝9時～夕方5時の間、公民館1階ロビーで閲覧できます。

なお、中央図書館や北市民プラザ図書館等は通常どおりご利用いただけます。

その他詳細は、ホームページをご覧ください。

ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

公民館図書室 HP ▶



図書室月報をご存じですか？

公民館図書室では毎月図書室月報を発行しています。「図書室のつどい」や「くにたちブッククラブ」の感想、半年にわたり、お一人がお気に入りの本を紹介する「私の本棚から」などを掲載しています。

1月号では昨年印象に残った本を様々な方が紹介しています。図書室月報は公民館の他、図書館等でも配布しています。ぜひご覧ください。

図書室月報 HP ▶



－3月分(ロビー4月分)の会場調整会のお知らせ－

申込書のポスト 投入期間	1月10日(土) ～1月29日(木)
予約の重なりのあった 団体の掲示開始日 (国立市HPにも掲載)	1月31日(土) ▶重なり状況
会場調整会	2月7日(土)朝10時～ 会場：地下ホール

※会場調整会当日は朝10時までに受付してください。

1月10日(土)の会場調整会は市民交流ロビーで行います。

今月の公民館 (1月～2月)

1月8日（木）夜	ブッククラブ 三島由紀夫『金閣寺』
13日（火）夜～	「日本語教育入門」
18日（日）朝	図書室のつどい「地名の由来～地名の始まりを知り、由来を伝える～」
18日（日）昼	文化・芸術講座－映画＆お話『Viva Niki タロット・ガーデンへの道』
25日（日）昼	シネボックス CINEVOX 『男はつらいよ 寅次郎あじさいの恋』
25日（日）昼～	シリーズ『戦後80年』「語り継ぐ戦争～被爆者からあなたに、戦後80年をこえて～」
2月8日（日）朝	親子で遊ぼう・考え方 「ピタゴラ装置コースを作って転がそう」
15日（日）昼	教育講座『思春期男子との関わり方～思春期を理解し、より良い親子関係を築く～』

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問い合わせください。

公民館 ☎ 042(572) 5141



▲講座等の案内

ピッヂングウェッジ一本で18ホール、国立（第三公園）コースを廻ります。歩くのが足りてない方ゴルフのレベルアップに、老若男女どなたでも始められます。

新年こそスポーツ吹矢健康法！
呼吸機能や口腔機能を鍛えて
ゲーム感覚で、楽しみながら、ス
ポーツ吹矢を始めませんか。強い
心肺能力と仲間作りは、人生の大
きな財産です。お待ちしています

日時 随時（予約をお願いします）

場所 体験館公民館・福祉会館・北プラザ

連絡先 坂井 090-2449-9175

アクアかもめ水泳会員募集

運動不足の方、健康新体づくりに水泳を始めてみませんか。初心者～上級者、泳力別にコーチの指導を受けて泳ぎます。男女問いません。体験可。（無料）

日時 毎週金曜日 朝10時～12時
場所 F S Xアリーナ室内プール
連絡先 安藤042（527）2255

アクアかもめ水泳会員募集



(7ページにもあります)
ひろば

「Vにたち映画館」

サーカル訪問 411

国立の街にはかつて小さな映画館があった。名画座として賑わい街の文化を支えていたが、約40年前に閉館。「もう一度、国立の街に映画を」と映画好きが集まり立ち上げたのが「くにたち映画館」だ。

設立当時はコロナ禍。スタッフの中村絵乃さんは、「映画を通して楽しみを分かち合い、少しでも孤立を防ぐことが出来たらという思いだった」と振り返る。

映画館といつても、固定の建物があるわけではなく、カフェやコミニティ・スペース等を会場にスタッフが選んだ映画を月に一日二回上映する。昨年のラインナップも『泥の河』『オッペンハイマー』『マミー』等と多彩だ。

上映後は映画監督等によるトークや参加者同士の感想シェアも行われる。映画を単に観るだけではなく、制作への思いや裏話、他者の思いがけない感想等を聞くことができるのも魅力の一つである。

取材日は、通常の「くにたち映画館」とは別に、「まちじゅうが映画館」と題した拡大版の「くにたち映画祭」。2025年は9月から11月まで全12日の企画が開催されていた。終了後、上映までの準備について伺った。スタッフ自身が気になる映画を持ち寄り、配



映画祭の上映を終えてホッと一息

場所 国立市内・周辺の店舗等
連絡先 くにたち映画館
究委員 幸島 桂子
（文・写真 公民館だより編集研
究委員 幸島 桂子
070-8597-1003

体感。地域で映画を通してつながり、新しい世界を拓げる。映画好きな方、一緒に活動しませんか? 『時くにたち映画館』は月1回スタッフ会議は不定期

給会社との交渉、会場の確保、チラシづくりやSNSによる広報……。公民館やお店にチラシを置いてもらうお願ひも手作業で一つ進めること。

「忙しくもあるが、思いをかたちにしていく楽しい時間でもある」と、スタッフは話す。

現在のスタッフは約10名。「いつもスタッフ募集中です」と笑う。会議では、次回上映する映画についても語り合っている。

—この「公民館だより」は再生紙を使用しています—